報道関係者　各位

九州・大分県 Harmonyland

PRESS INFORMATION
2026年11月吉日
株式会社サンリオエンターテイメント

ハーモニーランドに349名が集結！

大分の財來作物「もちとうきび」の脱粒に一斉挑戦し、ギネス世界記録™を達成！開催事後レポート

～日出町とともに、江戸時代から受け継がれる地域の種を未来へ～

株式会社サンリオエンターテイメント（本社：東京都多摩市、代表取締役社長：小巻亜矢）が運営する「サンリオキャラクターパーク ハーモニーランド（大分県日出町）」では、開園35周年を記念し、2026年11月23日（月・祝）、大分県で受け継がれてきた財來作物「もちとうきび」の種取りイベントを開催しました。「種取り」とは、翌年の栽培に向けて種を採取することで、今回はその一環として、とうもろこしの芯から粒を取り外す「脱粒」に挑戦しました。





本イベントでは、参加者349名が一斉にとうもろこしの脱粒作業に挑戦。そのうち344名が成功し「同時にとうもろこしの脱粒作業を行った最多人数」のギネス世界記録を達成しました。会場となったフェスティバルステージには、日出町長 安部徹也氏、株式会社サンリオエンターテイメント 代表取締役社長 小巻亜矢、ハローキティが登壇。参加者と一緒にスタートの合図に合わせて1分間、とうもろこしの粒を一つひとつ芯から取り外しました。今回使用した「もちとうきび」は、大分県で江戸時代から大切に受け継がれてきた、昔ながらのとうもろこしです。イベントでは大分の地域で受け継がれてきた「もちとうきび」の種を、未来へつないでいく取り組みについて、クイズで楽しく学ぶ場面もありました。

参加者からは、「普段なかなかできない体験で、家族と一緒に夢中になれました」「クイズを通じて大分の伝統作物のことも知れて楽しかった」「ハローキティと一緒に記録に挑戦できてうれしかったです」といった声が寄せられました。

今回の挑戦で脱粒した「もちとうきび」の粒は、来年の春にまき、収穫まで行う予定です。地域で大切に受け継がれてきた作物を通じて、参加者が種を未来へつなぐ営みに触れる機会となりました。

© 2026 SANRIO CO., LTD. TOKYO, JAPAN　著作 株式会社サンリオ

■ギネス世界記録挑戦イベント
「同時にとうもろこしの脱粒作業を行った最多人数」

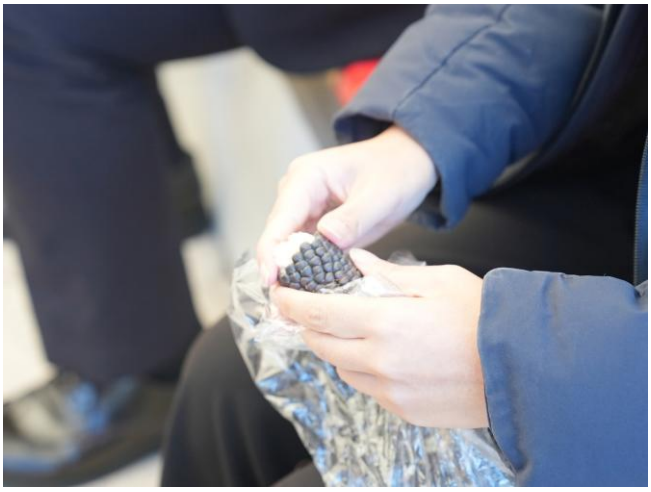
349名が一斉に挑戦！344名が成功し、大分の「もちとうきび」でギネス世界記録達成

11月23日（月・祝）、ハーモニーランドのフェスティバルステージに、「もちとうきび」の脱粒に挑戦する参加者349名が集まりました。ステージには、日出町長 安部徹也氏と株式会社サンリオエンターテイメント 代表取締役社長 小巻亜矢が登壇し、「今日は皆さんと一緒にギネス世界記録に挑戦できる貴重な機会となりました。この挑戦をきっかけに、日出町の『もちとうきび』にも注目が集まると嬉しく思います。皆さん、一緒に頑張りましょう！」とコメント。大分の地域で受け継がれてきた「もちとうきび」の種を、未来へつないでいく取り組みについて紹介しました。

11:05、合図とともに参加者が一斉に脱粒をスタート。参加者は手元の「もちとうきび」に集中し、1分間、一粒ずつ丁寧に芯から取り外していきました。会場には、参加者が真剣な表情で作業に取り組む姿や、家族や仲間と声を掛け合う様子が見られました。

挑戦終了後、公式認定員が、ルールに沿って脱粒作業を行った参加者の人数を確認しました。審査の結果、参加者349名のうち344名が成功し、「同時にとうもろこしの脱粒作業を行った最多人数」のギネス世界記録に認定されると、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。

参加者からは、「家族と一緒に夢中になって取り組めました」「昔から大切に受け継がれてきた作物を知るきっかけになりました」「ハローキティと一緒に記録に挑戦できてうれしかったです」といった声が寄せられました。今回脱粒した「もちとうきび」の粒は、来年の春にまき、収穫まで行う予定です。本挑戦は、地域で受け継がれてきた作物に触れ、その種を次の世代へつなぐことを考える機会となりました。









■ギネス世界記録挑戦の結果



達成年月日：2026年11月23日（月・祝）
達成場所：サンリオキャラクターパーク ハーモニーランド内「フェスティバルステージ」
達成人数：344名
記録タイトル：同時にとうもろこしの脱粒作業を行った最多人数
記録英語表記：Most people shelling corn simultaneously
審査内容：合図に合わせて、参加者全員で1分間一斉にもちとうきびの「脱粒（芯から粒を取り外す作業）」を行いました。

もっちりとした食感と、色とりどりの粒が特徴！大分のたからもの「もちとうきび」とは？

「もちとうきび」は、大分県で江戸時代から大切に受け継がれてきた、昔ながらのとうもろこしです。もっちりとした食感とやさしい甘さが特徴で、濃い紫やピンク、白など、さまざまな色の粒があります。乾燥させて粉にすると、パンやクッキーなどにも活用できます。かつては、乾燥させて細かくしたものをお米に混ぜて食べるなど、地域の人々の食や暮らしを支えてきました。

毎年丁寧に種を取り、その種をまいて育てる営みを繰り返すことで、次の年へ、そして次の世代へと受け継がれてきた作物です。今回の体験では、もちとうきびに実際に触れながら、小さな一粒の種を未来へつなぐ大切さを学んでいただきました。



財來作物（ざいらいさくもつ）とは
大分県内で古くから地域に根ざし、世代を超えて種や株が受け継がれてきた「在来作物」を地域の「財（たから）」として守り伝える取り組みや作物の呼称です。

※画像素材ご掲載の際は、必ずコピーライトの記載をお願いいたします。
© 2026 SANRIO CO., LTD. TOKYO, JAPAN 著作 株式会社サンリオ

© 2026 SANRIO CO., LTD. TOKYO, JAPAN 著作 株式会社サンリオ